

プロフィール

名前:ヒナコ

性別:女(設定)

分類:オナホロイド

特徴:

独り身なのにムラムラしてしまった男性の前に現れる性処理系のアンドロイド。ヒトの言葉をしゃべり肌の質感もヒトにそっくり、挿れ心地までヒトにそっくりという三拍子揃った高性能な性処理専用のアンドロイド。また、服装も自由に変更でき、顔の設定を変えれば年齢まで操れるという最強のアンドロイド。

序章 ヒナコの誕生

博士「ついにできたぞ。」

ウイツイン

ヒナコ「うう、うあ……。」

博士「それでは言葉を話してみろ。」

ヒナコ「初めまして。博士。」

博士「うん、上出来だ。ヒナコ、君はやれる相手がない独り身の男性のお相手をするのが仕事だ。それでは行って参りたまえ。」

ヒナコ「はい。」

1件目 タカフミさん宅の場合

タカフミ「ああ、俺はいつまでも独身のままなのかな。」

そう思いながら彼はいつも通りパソコンに保存してあるオカズをあさり始めた。

タカフミ「ああ、どうしよう、またムラっとしてきた。でもいつも使っているこれじゃもう満足しないんだよな。ああ、可愛い女の子とアレができたらな。でも俺にはやれる人がいないんだよなあああ！」

その時だった。

ピンポン！

タカフミ「はい。」

ヒナコ「どうも。」

タカフミ「だ、誰！？」

すると

ヒナコ「これが名刺よ。」

そこにはこう書いてある。

「私はオナホロイドのヒナコです。オナホロイドとはあなたの欲を満たすアンドロイドです。どんな風なご用件でもお聞きします。あなたのお好きな体位でやりましょう。」

タカフミ「つまり、アレをできるアンドロイドなのか？」

ヒナコ「そうです。」

タカフミ「人間みたい。」

ヒナコ「そうね。でもほら、見て。」

タカフミ「脈がない。それどころか小刻みに震えている。」

ヒナコ「ええ。でも私のアレはリアルよ。」

そしてベッドに横になるヒナコ。

ヒナコ「やっていいわよ。」

タカフミ「いいのか？」

ヒナコ「体位は？」

タカフミ「正常位しか勝たん！」

ヒナコ「わかりました。」

そしてヒナコはパンティを脱いだ。

お試しはここまで。